

## 研究報告

# 実習グループメンバーの相互理解の深化を目指したカンファレンス方法の検討 — 構造化連想法を用いた事例を振り返る —

富山 美佳子 宮武 陽子

足利大学 看護学部

### 要旨

**【目的】** 構造化連想法を活用したカンファレンスの過程及び後の感想を検討することで、学生に与えた効果を検証し、効果的なカンファレンスの方法の開発への示唆を得る。

**【方法】** 各論実習の開始当初の2グループを対象とした。カンファレンスは逐語記録し、記録をもとに個人の変化と連想の連動性を検討した。カンファレンスの感想を実習終了直後と、半年経過後に収集しテキストデータとし分類し検討した。

**【結果】** カンファレンスの経過では、グループA・B共に当初表出されたネガティブな感情が、決意や意欲へと変化した。感想の分析では終了直後47コード4カテゴリを得た。半年後の感想の分析では22コード4カテゴリを得た。

**【結論】** 1. 連動や共感の効果で決意や意欲を得る効果が示唆された。

2. グループアプローチに特有な要因と共にSATグループ特有の連想の連動による気づきによる効果があることが示唆された。

3. 協働の学びを得る可能性が示唆された。

キーワード：実習，カンファレンス，SAT技法，相互理解

## I. はじめに

看護専門職を目指し学ぶ学生にとって臨地実習は、「看護実践能力の育成のために、既修内容の適用、統合、応用・発達と、その場における新たな学修内容の追加・気づきにかかわる教授-学修過程」<sup>1)</sup>と位置付けられ、重要な学びの場である。文部科学省の看護学教育の在り方に関する検討会報告書<sup>2)</sup>でも、「臨地実習では知識のみならず、看護師としての援助的人間関係を形成する能力や専門職者としての役割や責務を果たすための能力が、体験的に看護サービスを受ける対象者と相対し、緊張しながら学生自らの看護行為を行うという過程で育まれる」とされている。そして、昨今の生まれながらにインターネットや携帯電話がある環境で育ったデジタルネイティブな現代の若者について市川は<sup>3)</sup>、機械やメディアとの親和性は非常に高いのに、目の前にいる生身の人間とはうまく距離がとれず、生身の対人関係で傷つくことを怖がり、傷つかないためには深く関わらない、コミットしない関わりを形成する傾向がある。そして他人と濃密な関係を作らないことが傷つかないための秘訣と考えており、かつて「やさしさ」は、他人の内面にまで入り込んで他人と深く共感しあうことであったが、今では他人と深く関わらないことが新しい「やさしさ」であるとさえ感じるものもあると述べている。また、他人と敵対関係になることを避けようとする傾向があり、「〇〇的な」「〇〇な感じ」あいまい語を使い断定を避け、常に相手の確認を求める、語尾を上げる「半疑問形」表現を用いるのも同様の意味であるとしている。

少なからず、そのような傾向の若者文化があるとすれば、現代の看護学生が各論実習で新たに編成されたグループのメンバーとともに、援助的人間関係を形成する能力や専門職者としての役割や責務を果たすための能力を一年にわたり学び続けることに厳しさを感じることは想像に難くないことであると考えられる。

大村ら<sup>4)</sup>の看護学生の抱える実習における困難・不安・ストレスに関する研究動向の文献研究の結果、研究領域として最も多かったのは、

実習領域を限定せず全般とした研究であった。そして、領域別の比較では精神看護学が最も多い結果であった。そのことから精神看護学領域は、実習学生の抱える困難・不安・ストレスに対し関心の高い領域である一方、これまでの研究は実習における学生のストレスに対する調査が主であり、教育的支援方法の具体的な研究はなされていない。そこで、学生が能動的に学修するための具体的な支援方法に焦点をあて検討していく必要があると考えている。本研究での事例は各論実習開始から間もない時期の2グループで、それぞれメンバー間の相互理解の不足が実習活動に影響を及ぼしていた。メンバーの学生はそれぞれが、助け合い支えあって実習を進めたい気持ちはあるが、具体的な解決に向かえていない状況にあった。相互理解が不足ということはすなわち、お互いの特性の理解も不足しており、何をどう協力して良いか分からず相互に支援する関係の成立が困難な状況にあると考えられた。

構造化連想法 (Structured Association Technique : 以下SATと表記する)のグループカウンセリングの特性は、「心理的な安全感があり、メンバーの視点からさまざまな意見を聞くことにより、気づきが深まり、またグループの一体感が得られ楽しく癒され、エンパワー(力づけ)される」<sup>5)</sup>とされている。SATは行動科学に基づく自己決定を支えるカウンセリングテクニックとして知られている技法である。2019年12月医中誌Webでの検索結果では、キーワード“SATカウンセリング”にて過去20年間で45件の研究が検出されたが、その研究内容は患者教育への活用や患者の自己決定の支援への関わりであり、グループへの活用やカンファレンスへの導入の研究はなされていない。そこで本研究ではSATの技法を用いたカンファレンスを実施し、実習グループメンバーの相互理解が深まることにより、学生が能動的に学修するための具体的なカンファレンス支援方法となるのではないかと考え実践の検証を行った。

## II. 目的

SATを導入したカンファレンスの過程を検討し、学生に与える効果を明らかにすることである。またカンファレンス実施後の感想を経時追跡し検討することで、実習グループのメンバー関係や実習の進行に及ぼす影響を検討することにより、効果的なカンファレンスの方法の開発への示唆を得ることが目的である。

## III. 方法

1. 対象者：看護大学の3年生、5月から開始した精神看護学実習の1・2クール目グループの6人グループの12名であり、対象理解の技法としてSATを活用したカンファレンスを提示したところ、実施を試みたいと申し出のあったグループを対象とした。

2. 期間：X年5月～11月。

3. カンファレンスの方法：学内実習日を活用し60分で実施し、SATグループカウンセリングの技法と手順<sup>6)</sup>（以下：SAT技法と表記する）を参考に実施した。

1) アイスブレイキングと今回のカンファレンスの進め方「今ここでのルール」について、：①教員はファシリテーターの役割を担う。②他者の発言について、評価や分析をすることはしないようこころがける。③発言者の話しの意味がわからない、もっと知りたい場合は、より詳しく説明してもらおうよう依頼する。④カンファレンスでの発言された個人的なことはお互いの倫理観に基づき公表は避ける。⑤思いついたことを話しても良いし、話さない自由も尊重される。⑥気がかりなことが起きてきた場合はその都度決めつつ進む。以上を学生と共に決め確認をした。

2) カンファレンス進行の手順：語りだしは主体的に一人が話し出し、以降は時計回りに「①実習の自分自身の課題について」をテーマに語り「②感情の連想法」を一巡する。次に語りだしの者に戻り「③自己イメージの連想」とその説明を一巡する。その次に語りだしの者に戻り

メンバーから、①～③を共感的に繰り返してもらい、共感してもらえたと感じたところで、「④今の気持ち」「⑤今後の自己決定」をする。そして、メンバーからランダムに（聴いていて感じたこと思ったこと）「⑤'グループメンバーからの言葉」を掛ける。この各々の言葉掛けがSAT技法での自己決定を支援する言葉に对照し、グループフィードバックとした。

4. データ収集方法：

1) カンファレンスは逐語記録した。当該学生に記録内容の確認を依頼し、修正を得て加筆したものをカンファレンスの経過記録とした。

2) カンファレンスの感想は「自由に感想を記載して欲しい」と依頼し実習終了直後と、カンファレンスから半年経過後の2回収集した。無記名、自由記載で回収箱への投函にて収集したものをテキストデータとした。

5. 分析方法：

1) カンファレンス経過は、個人の変化と連想の連動性の変化を検討した。連想の連動性は、研究者と共に対象関係論に精通した2名の臨床心理師の助言を得て、検討した。

2) カンファレンスの感想はそのままテキストデータとして入力後、研究者を含む看護教育5年以上の経験を有する者3名で意味内容毎に区切り（コード）とし、コードの関連性を考慮し〔カテゴリ〕に分類し、カテゴリを示すネーミングをし（コード）の数とともに示し検討した。

## IV. 倫理的配慮

学生はSATを対象理解の技法として1年生時に既習しており、技術の活用としてメンバーに提示し、実施の意思を得たグループにカンファレンスを実施した。また、カンファレンス経過記録および以降自由意志にて提出されるカンファレンスの感想を研究データとして活用することについて、効果検討の研究目的と記録物の匿名性を保持すること、許諾の如何によって評価やいかなる不利益も無いことを充分口頭と書面で説明し、自由意志による許諾を得た。カン

ファレンスの感想の回収には鍵のかかる回収箱を活用した。また足利大学の倫理審査による承認（足利大倫委 第51号）を得て実施した。

## V. 結果

### 1. カンファレンスの経過：

グループA（表1）は、「①実習の自分自身の課題について」「②感情の連想法」で全ての学生が不安や焦りまたは怖いといったネガティブな感情を表出していた。「③自己イメージの連想」でもネガティブな感情が継続していた。しかし、「④今の気持ち」「⑤今後の自己決定」をし、「⑤グループメンバーからの言葉」を得た段階で決意や意欲を得る変化があった。

グループB（表2）は「①実習の自分自身の課題について」「②感情の連想法」で不安と共に期待を感じるものと、嬉しさといったポジティブな感情を持つものが半々であった。しかし「③自己イメージの連想」では全員からネガティブな感情の表出があった。そして、「④今の気持ち」「⑤今後の自己決定」をし、「⑤グループメンバーからの言葉」を得て、それぞれ意欲的に実習に臨む発言があった。

### 2. 感想の分析：

実習終了直後の感想回収は92%であり、46コードを抽出し、抽出数の多いものから〔グループ相互の理解の深化（16）〕〔連想の効果による自己理解の深まり（13）〕〔凝集性と相互支援性の高まり（13）〕〔自己理解（4）〕4つのカテゴリを得た（表3）。半年後の感想の回収は58%であり、22コードを抽出し、同じく抽出数の多いものから〔チームとしての協力（11）〕〔相互理解（6）〕〔同感や共感（4）〕〔自己検討（1）〕4つのカテゴリを得た（表4）。

## VI. 考察

以前より「グループ・カウンセリング」「グループ・ガイダンス」「グループ・ワーク」と集団アプローチは効果的であると注目を集め、来談者中心療法で有名なC. ロジャース<sup>7)</sup>はグループ・アプローチについて、今世紀最も急速に拡大し

ている社会的発明であり、おそらく最も将来性のある発明であろうと語っている。SAT<sup>5)</sup>ではグループであることの効果の一つとして、自分以外のメンバーの発言を聴く時間は別な人が話していることによる心理的な安全感が確保され、発想や連想が促されると共に、共感や同感が起こり安心して率直に意見が言えるとしている。

### 1. カンファレンスの経過の検討：

カンファレンスの始めにアイスブレイキングと共に、今回のカンファレンスの進め方について「今ここでのルール」を学生と共に決め確認したことは、この場での安心感の確保につながりSATグループの効果を一層高めることになり得たと考える。

1) カンファレンスの経過として、グループA（表1）で当初全ての学生から表出された、「不安」や「焦り」または「怖い」といった感情は、SATの「基本感情と感情の定義」<sup>8)</sup>に对照すると、全て基本感情は「不安」であり、思いや期待したものに見通しが付かない場合の感情と定義される。各々に「実習を成し遂げたい期待」が意識化にあり、そこへ到達する方略の見通しが、得られていない状況であると推察される。「③自己イメージの連想」で、現在のネガティブな自己が連想されたことは、そこから自身に内在する「実習を成し遂げたい期待」の方向に向けての成長や変化を目指し、成長前の自己嫌悪といえるのではないかと考える。そしてA-1が、【引きこもっている】自己がこれまで、「怖いから外に出なければいいと思って」きていたのが、「④今の気持ち」で「どうしたら変わるのかな」と…考え、「⑤今後の自己決定」で「人の悪口をいう」と自己決定をした。一見何のことだかわかり難いが、話し出しからを振り返るとA-1は「不安で自信がなくて、早口で声が小さくなってしまい、そのたびに相手に聞き返させていることを、申し訳ないと思っていた学生で、いろいろ考えていて、心に余裕が持てなくて、焦りがあり、こういう考えなのかも知れないと、自身の考えがあっても、間違っていることが不安で『え～それ違くない～って言われるのが』

表1 グループAのカンファレンス経過

	①自身の課題	②本字 = 感情 (背後の期待)	③【自己イメージ連想】とその説明	④今の気持ち	⑤今後の自己決定	⑥グループメンバーからの言葉
A-1	聞かされたことにちゃんと答えられていない 的外れなことを言ってしまうのではないかと不安 (適切に応答できるようにしたい)	自信がない、早口で声が小さくなる 申し訳ない (そのたびに相手に聞き返させている) いるいる考えている 焦り (心に余裕が持たない) こういう考えなんです かも知れぬしと思っても 間違っているかも 聞違っているかも 聞えない 怖い・不安 (え ~それ違くない〜って言われるのが)	【引きこもっている】 怖いから外に出なければいけないと思っ て	どうしたら変われるの かな	人の悪口をいう	いいよね ブラッパになる ブラッパになってもかわいいかも
A-2	聞かされたことにちゃんと答えられていない 不安 (適切に応答できるようにしたい)	自信がない、早口で声が小さくなる 申し訳ない (そのたびに相手に聞き返させている) いるいる考えている 焦り (心に余裕が持たない) こういう考えなんです かも知れぬしと思っても 間違っているかも 聞違っているかも 聞えない 怖い・不安 (え ~それ違くない〜って言われるのが)	【ビロリ】 違うって言われることに、バウだなと思われ ることに 使われたいと怖がっている	頑張るしかない	知識を増やす 自分を崖から落とす 背水の陣じゃないとできない	崖から落ちたら死んじゃうよ~ 飛び降りる覚悟で、みんなまで飛べ ば怖くない
A-3	聞違っていないのか不安 意思決定力が弱くて上手くいかない、患者にちゃんと説明できない (はっきりしたい) 患者に任せよう、私の独りよがりになりたくない (患者と一緒に考えて ベストアンサーを出したい) 知識はあっているのか不安 (もう少しちゃんとしたほうがいいのに)	自信なくって 怖い、技術応用がきかない、積極的に関わって行きたい 安全にできるか 傷つけちゃった、さげたい (自信もってやりたいのに、どうしよう) 怖くなる友達にぶと言ったことで、相手に (取り違われ) ショック 覚醒されるのも、人に嫌な思いさせられるかも (嫌な人と思われ) のが怖い 「こいつ何?」相手に認められられない いらぬ言っている 今はよくても、(いつ)手を返されるんだらう 不安 目上の人、大人から怒られる いつ (信頼が) なくなっちゃうんだらう 家に帰ってひとりになるとそんなこと考えて泣きたくなる	【怖がり】 いるんなことを恐れている 怒られるのも嫌 失敗するのも嫌	変わりたいけどどう やったら?!	頼ってみよかな~みんなに 迷惑になるんじゃないかな~ おんぶに抱っこしていいかな みんな一緒だよ	飛ぼう、飛ぼう 泣いちゃっていいよ
A-4	自信なくって 怖い、技術応用がきかない、積極的に関わって行きたい 安全にできるか 傷つけちゃった、さげたい (自信もってやりたいのに、どうしよう) 怖くなる友達にぶと言ったことで、相手に (取り違われ) ショック 覚醒されるのも、人に嫌な思いさせられるかも (嫌な人と思われ) のが怖い 「こいつ何?」相手に認められられない いらぬ言っている 今はよくても、(いつ)手を返されるんだらう 不安 目上の人、大人から怒られる いつ (信頼が) なくなっちゃうんだらう 家に帰ってひとりになるとそんなこと考えて泣きたくなる	自信なくって 怖い、技術応用がきかない、積極的に関わって行きたい 安全にできるか 傷つけちゃった、さげたい (自信もってやりたいのに、どうしよう) 怖くなる友達にぶと言ったことで、相手に (取り違われ) ショック 覚醒されるのも、人に嫌な思いさせられるかも (嫌な人と思われ) のが怖い 「こいつ何?」相手に認められられない いらぬ言っている 今はよくても、(いつ)手を返されるんだらう 不安 目上の人、大人から怒られる いつ (信頼が) なくなっちゃうんだらう 家に帰ってひとりになるとそんなこと考えて泣きたくなる	【怖がり】 いるんなことを恐れている 怒られるのも嫌 失敗するのも嫌	変わりたいけどどう やったら?!	頼ってみよかな~みんなに 迷惑になるんじゃないかな~ おんぶに抱っこしていいかな みんな一緒だよ	飛ぼう、飛ぼう 泣いちゃっていいよ
A-5	自信なくって 怖い、技術応用がきかない、積極的に関わって行きたい 安全にできるか 傷つけちゃった、さげたい (自信もってやりたいのに、どうしよう) 怖くなる友達にぶと言ったことで、相手に (取り違われ) ショック 覚醒されるのも、人に嫌な思いさせられるかも (嫌な人と思われ) のが怖い 「こいつ何?」相手に認められられない いらぬ言っている 今はよくても、(いつ)手を返されるんだらう 不安 目上の人、大人から怒られる いつ (信頼が) なくなっちゃうんだらう 家に帰ってひとりになるとそんなこと考えて泣きたくなる	自信なくって 怖い、技術応用がきかない、積極的に関わって行きたい 安全にできるか 傷つけちゃった、さげたい (自信もってやりたいのに、どうしよう) 怖くなる友達にぶと言ったことで、相手に (取り違われ) ショック 覚醒されるのも、人に嫌な思いさせられるかも (嫌な人と思われ) のが怖い 「こいつ何?」相手に認められられない いらぬ言っている 今はよくても、(いつ)手を返されるんだらう 不安 目上の人、大人から怒られる いつ (信頼が) なくなっちゃうんだらう 家に帰ってひとりになるとそんなこと考えて泣きたくなる	【怖がり】 いるんなことを恐れている 怒られるのも嫌 失敗するのも嫌	変わりたいけどどう やったら?!	頼ってみよかな~みんなに 迷惑になるんじゃないかな~ おんぶに抱っこしていいかな みんな一緒だよ	飛ぼう、飛ぼう 泣いちゃっていいよ
A-6	記憶力がなくて メモを取るんだけど 大事なことを忘れちゃった 不安 (しっかりしたい)	自信なくって 怖い、技術応用がきかない、積極的に関わって行きたい 安全にできるか 傷つけちゃった、さげたい (自信もってやりたいのに、どうしよう) 怖くなる友達にぶと言ったことで、相手に (取り違われ) ショック 覚醒されるのも、人に嫌な思いさせられるかも (嫌な人と思われ) のが怖い 「こいつ何?」相手に認められられない いらぬ言っている 今はよくても、(いつ)手を返されるんだらう 不安 目上の人、大人から怒られる いつ (信頼が) なくなっちゃうんだらう 家に帰ってひとりになるとそんなこと考えて泣きたくなる	【付いていけない】 自信がない	大丈夫か私?!	わかんないことはわかんない って 素直になる	みんなさうだからさ 同じと思う
A-6	記憶力がなくて メモを取るんだけど 大事なことを忘れちゃった 不安 (しっかりしたい)	自信なくって 怖い、技術応用がきかない、積極的に関わって行きたい 安全にできるか 傷つけちゃった、さげたい (自信もってやりたいのに、どうしよう) 怖くなる友達にぶと言ったことで、相手に (取り違われ) ショック 覚醒されるのも、人に嫌な思いさせられるかも (嫌な人と思われ) のが怖い 「こいつ何?」相手に認められられない いらぬ言っている 今はよくても、(いつ)手を返されるんだらう 不安 目上の人、大人から怒られる いつ (信頼が) なくなっちゃうんだらう 家に帰ってひとりになるとそんなこと考えて泣きたくなる	【付いていけない】 自信がない	大丈夫か私?!	わかんないことはわかんない って 素直になる	みんなさうだからさ 同じと思う

表2 グループBのカンファレンス経過

	①自身の課題	②本字 = 感情 (背後の期待)	③【自己イメージ連想】とその説明	④今の気持ち	⑤今後の自己決定	⑥グループメンバーからの言葉
B-1	精神というPT コミュニケーション取れるの?最初不安だった 受持ち以外の患者さんから話しかけてもらっている (いろんな人に声をかけて もらっている) 嬉しい 日常の活動性が低下している患者なので、介入を考えている。水分摂取が少ないので便秘にも なるのか?お腹の事も考えている (完成したら、患者さんが自分で積極的に行なってもらえ る) 期待と不安	【できていない訳ではない】 患者との関係は日を追うごとに深まっ てい るけど	もっと患者のために できることがあるんじゃない のかな 深いことを聞いていい のかかわらなくて	もっと深く 相談をする	すごい!	
B-2	授業で見た映像のような人いるのかな?雰囲気は家の中のように明い人が多い、不安あまり ない、イメージ変わったかな、特別な場所もあるけど、他と違うイメージはなくなった。受持 ち患者さんとも和やか 普通の人と同じくらいに話せた (患者さんともうまくやっていた) 安心 自分も気が洗んじやたらいいやだな (病棟で仲良く練習できる) 期待・安心	【狭い】 なんか小さくまとまっちゃいそうなのに、私は 皆いろいろあるって頑張っているのに、私は そうでもない	受持ちの患者しか見 ていない 備けない	メンバーのPTについてアドバ イスが言えるように学習する	頼りにしちゃおっかな~ よろしくお願ひします	
B-3	病態が不安定、うつだと「死にたい」ときこえるって言うていて、躁にもなる。「こんなに元気だ から退院できない」となるらしい。 近く退院予定、穏やかに、静かに、促す。精神科のイメージ変わった。驚いた (この雰囲気 にそ ぐわぬか、どうしていいかわからない) (できているときもある、この人のための援助が見つけ られるだろうか) 不安	【何しているんだろ】 泣くより美っていたほうがいいんじゃない のかかと思っ ていて、言葉にするのが援助 の方法、選まわし ていて、大切なこと を考 えられていない、振り回されている?	しっかりしていない 自分は、本当の意味で は役に立っていない 備けない	患者が主導権握っているのは 悪くないかも しれないけど 退院後の話しも考えて、現実 的に話を する	嫌な顔されたら言い難いよね 泣くより美っていい 自分の問題なんだねなんか かわ った	
B-4	統合失調症の陰性症状の方を担当。人を拒んでいるイメージ、話してくれず、意欲の低 下がある。何をすすめるにも拒む、言葉で交わしてはくれない、身体症状があるといわれ ていない) 自己嫌悪	【マイナスに考えている】 目標小さく、でもその人には大きな目標 になっている	自分も楽しくなかった	患者が楽しく、そこに向か える援助 できないことばかり 見ていたけど、できることは あり 見てみる	前向き~	
B-5	コミュニケーション距離感と考える。排泄や飲水に馴れているのかどうかわからない、作業リハビリの疲 れやすさもある。聴くことにより不安の軽減になるのだろうかどうしていいかわからなくなる。 病状のためか、泣いちゃった。近くにいてくれるか、身体症状があるといわれ ていない) 自己嫌悪	【マイナスに考えている】 目標小さく、でもその人には大きな目標 になっている	自分も楽しくなかった	患者が楽しく、そこに向か える援助 できないことばかり 見ていたけど、できることは あり 見てみる	前向き~	
B-5	コミュニケーション距離感と考える。排泄や飲水に馴れているのかどうかわからない、作業リハビリの疲 れやすさもある。聴くことにより不安の軽減になるのだろうかどうしていいかわからなくなる。 病状のためか、泣いちゃった。近くにいてくれるか、身体症状があるといわれ ていない) 自己嫌悪	【マイナスに考えている】 目標小さく、でもその人には大きな目標 になっている	自分も楽しくなかった	患者が楽しく、そこに向か える援助 できないことばかり 見ていたけど、できることは あり 見てみる	前向き~	
B-6	この人はどれだけ辛い思いをしてきたのだろうかと思う。質問したことにならず、感情を出して 来ず、自分からチャレンジしようとする。一緒にできている、やり遂げられて いる。私にも依存があるんだらう、そうなのかな、と思った。指導も、距離をとるの も難しい (PTが自分を認めてくれる。) 嬉しい	【マイナスに考えている】 目標小さく、でもその人には大きな目標 になっている	自分も楽しくなかった	患者が楽しく、そこに向か える援助 できないことばかり 見ていたけど、できることは あり 見てみる	前向き~	
B-6	この人はどれだけ辛い思いをしてきたのだろうかと思う。質問したことにならず、感情を出して 来ず、自分からチャレンジしようとする。一緒にできている、やり遂げられて いる。私にも依存があるんだらう、そうなのかな、と思った。指導も、距離をとるの も難しい (PTが自分を認めてくれる。) 嬉しい	【マイナスに考えている】 目標小さく、でもその人には大きな目標 になっている	自分も楽しくなかった	患者が楽しく、そこに向か える援助 できないことばかり 見ていたけど、できることは あり 見てみる	前向き~	

怖くなり言えない」これまでがあった。そしてその学生の「人の悪口をいう」という自己決定は、「今までできなかったことをしてみる」というある意味での挑戦であるとメンバーは理解し「いいよね、ブラックになる、ブラックになってもかわいいかも」といったメンバーからの言葉はA-1の自己決定を支援する言葉となったと考える。SAT技法ではメンバー間で相手の気持ちへの置き換えを活用した連想を活発化させる<sup>9)</sup>。そこでA-1に引き続き以降の学生も、心理的な連動がおこり決意や意欲を得るといった変化が得られたと考える。

2) グループB (表2) では「①実習の自分自身の課題について」「②感情の連想法」でB-1が「ほっとしている」「嬉しい」「期待と不安

といった感情を表出したことにより、連動して不安と共に期待を感じるものと、嬉しさのポジティブな感情を持つものが半々であったと考える。そして「③自己イメージの連想」ではB-1が「できていないわけではない」と達成目標から見ると不足を感じている連想がなされた。そのことに続き、グループAと同様に現在の自己が自身の望む方向に向け自己検討する連動が働き、ネガティブな感情の表出なされたと考える。そしてそれは、各々が実習に関する目標を持ち未だ達成半ばであることの自覚がなされたことであると考え。その後B-1が自身の不足を具体的に検討し、メンバーの共感の効果で決意や意欲を得ることへとつながり、以降グループAと同様に、心理的な連動がおこり決意や意欲を得るといった変化が得られたと考える。

表3 カンファレンス後の感想

カテゴリ	コード (数)
	みんなのことを知ることができた (2)
グループ相互の理解の深化	皆に悩みがあることを知れた
	考え方の違いに気付いた
	メンバーの患者さんとの関わりが良くわかった
	考え方に違いがあることが良くわかった (2)
	自分と違ったところで悩んでいることがわかった
	悩みが共有できた (2)
	みんなの話しを聴いて共感した
	違った視点で考え、自分だったらと考える機会となった
	普段だったら聞いてはいけないのかな?と思うような深い話しを聞いた (2)
	16 普段のカンファレンスや話の中では言えないことが言えた (2)
自己理解の深まり	自分の考えに気付くことができ驚いた
	自分への気付きがあり知れた気がする
	質問をしてもらうことで、自分のことを考えることが出来た (2)
	自分が必要以上に気にしていたことに気付けた
	聴いてもらうと気持ちが引き出されるのだとわかった (2)
	自分の気付いていない気持ちに気付くことができた (2)
	自分の話したことをくり返してもらうことで、自分の気持ちが良くわかるのだと体験できた (2)
	落ち着いて自分の声で自分の考えを深められた自分の意思を再認識することができた
	13 患者さんとの間でも、聞いたら悪いか?と壁を作っているのは私なのかも知れないと思った
	採集性と相互支援性の高まり
どうにもならなくても楽になる	
悩みは話したほうが良い	
わかってもらえた気がして嬉しかった (2)	
有意義な時間だと感じた (2)	
自分だけじゃないんだと安心した気持ちになれた (2)	
仲間を助けたいと思った	
助け合っていきたい	
実習をがんばろうと思った	
13 皆で前向きになれた気がした	
自己理解	自己評価が出来た
	自分の心配の原因がわかった
	自分の意思を再認識することができた
	4 自分の考えの整理になった

2. 感想の分析

1) 実習終了直後 (表3) の感想の回収率は高く、46コードを抽出するに至った。対照群をもたない本研究で効果の度合いについて論述することに限界はある。そして、エンカウンターを初めとして、わが国のグループアプローチの研究に造詣の深い野島は<sup>10)</sup> グループアプローチに特有な要因について①愛他性：自己中心傾向を

表4 カンファレンスから6ヶ月経過後の感想

カテゴリ	コード (数)
チームとしての協力	実習を通してカンファレンス等皆で協力しなければいけないときに皆で話し合った
	協力して乗り越えていこうという気持ちは実習が終るまであった
	わからないことはグループメンバーに相談するようになった
	メンバーに頼ることは効果的であった
	協力して乗り越えていこうと思えた (2)
	連絡をこまめにとり連携が取れた
	メンバーの問題を皆で調べて解決に向けて行動できた
	性格等が見えてきて、グループ内の仲が特に深まることはなかったと感じている
	性格が合う合わないがあるので、仲がよいとかはなくても協力できた
	11 仲はそこまで良くなかったが、協力して乗り越えることはできた
理解相互	カンファレンスの後でお互いの性格がわかった (3)
	より仲が深まったと感じた
	頼りすぎてしまうこともあった
共感	6 お互いのことがわからないうちは不安であった
	実習に対して不安が皆にあることを知り、皆も悩んでいることがあるのだと知ることができ安心した (2)
	4 不安を共有することで、気持ちは軽くなることはあった
	1 検自己
カンファレンスの後自身の考えが再確認でき自身の課題を見つめ直す機会となった	

抑えて、他者を暖かく慰め親切な助言をすることで、他者を助けることができる喜びによって安定感、生活意欲が高まる。②観察効果：他者の言動を見聞きする中で、自分のことを振り返ったり見習ったりする。③普遍化：他者と自分も同じような悩みを持っているということを知り、自分だけが特異でないことを自覚し、気が楽になる。④現実吟味：対人関係の問題をグループの中で再現し、その解決法を試行錯誤しつつ学ぶことで自信をもち、適応能力が高まる。⑤希望：他者の成長や変化を目の前にすることによって、将来に向けて希望が持てるようになる。⑥対人関係学習：話したり聴いたりすることを通して、自己表現能力や、感受性が高まる。⑦相互作用：グループ担当者とメンバー、メンバー同士でお互いに作用しあう。⑧グループ凝集性：グループとしてのまとまりが相互の援助能力を高める。といった8つの要因を挙げている。

これを本研究で抽出されたカテゴリと対照して検討すると〔グループ相互の理解の深化(16)〕が最も多いのは他の要素と比較して効果は高いと考え、③普遍化や⑦相互作用の要素が考えられた。また⑧グループ凝集性は前カテゴリにも〔凝集性と相互支援性の高まり(13)〕にも通ずるものがあると考えた。そして①愛他性、⑤希望はグループアプローチの特有な要因として、カンファレンスの過程を通じてあり続けたことにより、メンバー間の連動や共感の効果で決意や意欲を得ることへとつながったと考える。〔自己理解(4)〕は思いを言語化する過程での気付きや効果があると考えられるが、カンファレンスを通してこれまで、無自覚の自分の思いや感情への気付きが深まる〔連想の効果による自己理解の深まり(13)〕は、野島の言う②観察効果⑥対人関係学習といった効果でもあり、同時に、SATグループ特有の連想の連動<sup>9)</sup>による気付きによる効果であると考えられる。2) カンファレンスから半年後の感想の分析(表4)では4つのカテゴリを得た。学生にはカンファレンスの感想として依頼はしているものの、カンファレンスから半年間の各論実習を当該メンバーと共に経過し、半年間の様々な経験を経て

いることを考慮すると、この結果には当然他の経験のバイアスが含まれていることとして考えられている。そのうえで特出すべきは〔チームとしての協力(11)〕としたカテゴリ中の記載である。性格的に合わない、仲がよいではなくというデータと、協力しなければならない時に・話し合いをする、協力して課題を乗り越えると「いわゆる仲良しグループ」ではないチームで活動をする学びへとつながる要素を得る可能性が示唆された。

### 3. 研究の限界と今後の課題に関する記載

本研究ではカンファレンスにSATを活用するにあたり、ファシリテーター教員の介入が必要であった。今後教員のファシリテートなく、SATを活用したカンファレンスができるようカンファレンスシート等の工夫をすることにより、学生が主体的に実習に取り組みへとつながる可能性も広がると考える。更なる検証を深めたいと考える。

## VII. 結論

SATを活用したカンファレンスの教育介入では、以下の点の示唆を得た。

1. 現在の自己成長や変化を目指すことによるプロセスを経て、メンバー間の連動や共感の効果で決意や意欲を得る効果があることがわかった。

2. 一般的なグループアプローチに特有なグループダイナミクスによる要因と共に、SATグループ特有の連想の連動による気付きによる効果があることが示唆された。

3. チームで活動(協働)をすることの学びへつながる要素を得る可能性が示唆された。

投稿者は、研究に関連する企業や営利を目的とした組織または団体との利益相反(COI)は無い。

## 引用文献

- 1) 田島桂子. 看護基礎教育評価の基礎と実際  
-看護実践能力育成の充実に向けて. 医学  
書院; 2011.12.
- 2) 文部科学省. 看護学教育の在り方に関する  
検討会報告書. 2002.  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/  
chousa/koutou/018/gaiyou/020401](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401)  
(2018年8月3日参照).
- 3) 市川孝一. 現代若者考視線平気症とケータイ文化. 生活科学研究. 1999; 21: 97-103.
- 4) 大村郁子, 藤長すが子, 岡田尚美, 他. 看護学生の抱える実習における困難・不安・ストレスに関する研究動向. 日本看護学会論文集. 看護教育. 2019; 49: 39-42.
- 5) 富山美佳子. SATグループカウンセリングの効果. 宗像恒次監修. ヘルスカウンセリング事典. 日総研出版; 1999.114-115.
- 6) 小森まり子. SATグループカウンセリングの技法と手順. 宗像恒次監修. ヘルスカウンセリング事典. 日総研出版; 1999.118-119.
- 7) Rogers, C.R. Carl. Rogers on Encounter Groups. Harper & Row. 1970. 畠瀬稔, 畠瀬直子訳. エンカウンター・グループ. 創元社; 1982.172-190.
- 8) 宗像恒次, 小森まり子, 橋本佐由理. ヘルスカウンセリングテキスト(1). ヘルスカウンセリングインターナショナル; 2000.66-73.
- 9) 小森まり子. ステージの深化モデル. 宗像恒次監修. ヘルスカウンセリング事典. 日総研出版; 1999.116-117.
- 10) 野島一彦. グループアプローチへの招待. 現代のエスプリ. 至文堂; 385. 1999. 5-13.

〔 受付日 2019年10月31日 〕  
〔 受理日 2019年12月24日 〕

# Examination of conference method aiming at deepening mutual understanding among training group members

## — Investigating the case where the Structured Association Technique was introduced —

---

Mikako Toyama    Yoko Miyatake

Department of Nursing, Ashikaga University

### *Abstract*

**[Purpose]** This study investigates the process and subsequent impressions of the conference that utilized the Structured Association Technique (SAT) to verify the effects of the conference on students and obtain suggestions for developing effective conference methods.

**[Methods]** Two groups of students assigned at the beginning of each practical training session were investigated. The conference was recorded verbatim and the changes in individual students and their interrelation with the association were examined based on this. The impressions of the conference collected immediately after the completion of the practical training and half a year later were classified as text data and investigated.

**[Results]** Regarding the process of the conference, negative impressions initially expressed in both groups A and B changed to impressions, such as determination and motivation. In the analyses of the impressions immediately after the completion, 47 codes and 4 categories were obtained, while in the analyses of the impressions half a year later, 22 codes and 4 categories were obtained.

**[Conclusion]** 1. The interrelation and empathy obtained in the conference may affect the development of determination and motivation.

2. Factors specific to group approach and awareness due to the interrelation with association specific to the SAT group may be effective.

3. Cooperative learning may be possible.

**Key words :** practical training, conference, SAT technique, mutual understanding